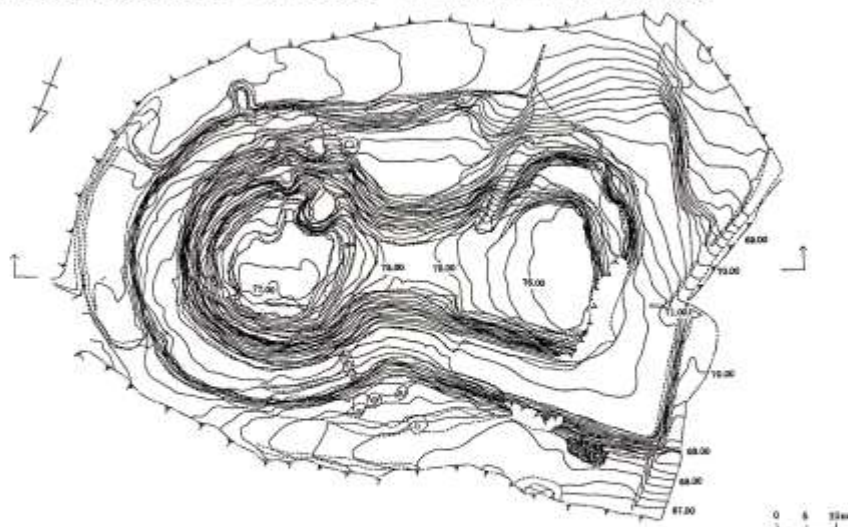


ぜんぞうづかこふん
善蔵塚古墳

善蔵塚古墳は、八女丘陵の丘頂部分に築造されている大型の前方後円墳です。前方部は西に向け、後円部2段・前方部2段に築造されています。広川町教育委員会により測量された結果、墳長約95m、濠を含めると総長約110m前後になります。後円径約45m、前方部幅約60m。後円部の高さ約8m、前方部の高さ約6mを測ります。この古墳の前方部は、その南西部が一部開墾等により旧状が崩れているものの、中央部が「への字状」に突き出す特殊な『剣菱形』の形状をしています。採集された円筒埴輪などから6世紀中頃～後半（古墳時代後期）の時期が与えられています。

この古墳よりも先行する岩戸山古墳とこの善蔵塚古墳の測量図を重ねてみると、平面プランや段築状況がぴったりと一致し、岩戸山古墳の約70%の大きさの「相似墳」であることが分かります。八女古墳群の首長墓に岩戸山古墳の墳丘企画図が採用されている点は着目すべきことです。善蔵塚古墳は未調査ですが、今後の調査による歴史的な位置づけは大いに注目に値します。

平面図



断面図



善蔵塚古墳の測量図（広川町教育委員会作図、許可なく無断転載複写を禁じます。）